

教育ニュース「響学 共動」 No.10

今週の児童川柳 「夏だなあ」 プールがあれば いい気分」(3年生)

平成 22 年 7 月 12 日

広島市立吉島小学校

本校では今、「協同学習」のよさを生かした授業に取り組んでいます。この「協同学習」には次のような特徴があり、児童は相互に学び合い、分かり合うことの醍醐味を味わっています。

協同学習は、ペアやグループで児童相互が考えや思いを伝え合ったり聴き合ったりしながら、心と力を合わせて問題解決に取り組む学習方法です。したがって、問題解決にむけ、コミュニケーション活動の充実を図るところにその特徴があります。協同学習に取り組むことにより、①問題解決への視点や方法が広がり個々の学習が充実するとともに、②「問題解決への気持ちや考え方が分かった・分かってもらえた」「問題解決へのサポートができた・してもらえた」といった感情体験ができ、人間関係をよりよいものへ促進することができるともいわれています。

そのために、学校ではこれまで以上に、児童がより問題解決したいと思える学習課題の設定に努めたり、児童同士のコミュニケーションが充実できるよう「聴く、つなぐ、戻す」手法を用いてコミュニケーションに効果的に介入したり、児童相互が学習の過程や成果、特徴やよさを認め合える掲示物の工夫に力を注いだりしています。

子どもと先生の「協同学習」で 作文の味わいがアツプ!

自分の経験したことを相手が豊かに想像できる文章づくりへのチャレンジが、ひまわり学級でも。A 児の作文（「プールで泳いだよ」）の初稿が変化しました。

初稿

今日学校のプールで水泳のれんしゅうをやりました。先生とひまわり4人でやりました。ふねもしました。楽しかったです。

→

協同学習後

今日学校のプールで水泳のれんしゅうをやりました。先生とひまわり4人でやりました。ふねをしました。ビート板をもって足をまげないようにバタ足のれんしゅうもしました。プールの水はぬるかったです。

* 5W1Hがより具体化し、下線の部分が加わることにより、水泳時のようすが分かり、そのときの楽しさも伝わってくる作文に。～創造することは、「想像すること」～

かみなりがゴロゴロきこえてきたので、早くおわりました。でも、楽しかったです。

この変化は、初稿の交流時に行われた「質問コーナー」での「船もの「も」って書いてるけど、ほかに何か練習しましたか？」など B 児の質問に端を発したようでした。「そうだね、それを書き加えたら、様子や楽しさがもっと相手に伝わるよ。その時の様子を思い出してみようね」と、担任が B 児の質問をつなぎ A 児の想起を促す。その後、板書に A 児の想起したことがどんどん加わり、作文に生かされていきました。学習終了後、A 児と B 児、そして担任には、満面の笑顔がありました。

作品を写真掲示することにより、作品のよさを学び合う子どもたち

「くっつけ くっつけ」の粘土作品の写真掲示が、3年生の教室に。

今にも動きそうな恐竜、何か気持ちよさそうに船遊びをしている亀とうさぎ、何か温もりを感じるパンダの親子のようすなどの作品がみられる。

どの作品も児童が表したいことを立体に表した力作ばかり。この写真掲示により製作後も作品を鑑賞することができ、再び各作品の表現の工夫に気づき交流が生まれる。そして児童は、表現意欲を刺激されるとともに、創造的な技能を高めていくことができるのです。

